

## 第2期会計人材開発支援プログラムの開講に向けて

ASBJ 副委員長 あらい たけひろ  
新井 武広

### 1. はじめに

当財団では、中長期的な視点に立った国際的な会計人材の発掘・育成の一助として、第2期会計人材開発支援プログラムを5月下旬から開講することを予定している<sup>1</sup>。第2期プログラムも、第1期プログラムと同様、当財団内に設置された「会計人材開発タスクフォース」での検討を経て取りまとめ、公表したものである(図表1)<sup>2</sup>。第2期プログラムは、2013年12月に終了した第1期プログラムのコンセプトを基本的には踏襲しつつ、会計基準開発に興味のある若い世代を中心として、企業会計に関する知識と英語力の向上を図るプログラムを約1年半にわたり提供するものである。

本稿では、会計人材開発支援プログラムの目的と第2期プログラムの概要を紹介することとする。なお、意見にわたる部分は、筆者の私見である。

### 2. 会計人材開発支援プログラムの目的

金融資本市場のグローバル化に対応して、G20首脳会議での首脳宣言では、単一で高品質な国際基準の策定についての提言が継続して出されている。また、我が国では、2009年6月に企業会計審議会から公表された「我が国における国際会計基準の取扱いに関する意見書(中間報告)」に基づき、2010年3月期から一定の要件を満たす我が国企業の連結財務諸表に国際財務報告基準(IFRS)の任意適用が開始され、2013年6月には「国際会計基準(IFRS)への対応のあり方に関する当面の方針」が公表され、IFRSの任意適用要件の大幅な緩和が図られたところである。

このような状況下、会計基準開発の国際舞台で我が国の存在感を示すとともに、我が国の状況も踏まえた国際的な基準開発を求めていくことは、ますます重要な施策であると考えられる。これに対応するためには、我が国から質の高い意見発信を行うとともに、国際会計基準審議会(IASB)理事やIFRS解釈指針委員会委員、IFRS諮問会議委員をはじめとした、さまざまな国際的な組織や会議体のメンバーに優秀な会計人材を継続的に送る取組みを強化する必要がある。そのためには、会計人材の育成、特に国際的な会計人材の育成に関して、各々の市場関係者における教育研修(OJT及び各社の研修プログラム)に委ねるだけでなく、中長期的視野に立って、オール・ジャパンとして計画的かつ組織的な取組みを行っていくことが肝要であると考えられる。

1 参加者の募集は、当財団のホームページなどを通じ、平成26年2月10日から3月7日にかけて行ったところである。

2 平成26年1月30日に第8回会計人材開発タスクフォースを開催し、第1期の実施結果の分析を行ったうえで、第2期プログラム案について検討を行った。

(図表 1) 会計人材開発タスクフォースのメンバー

(敬称略)

	氏名	所属
委員長	新井 武広	ASBJ 副委員長
委員	内田 和宏	有限責任あずさ監査法人 人事部長
	山田 辰己	有限責任あずさ監査法人 理事・パートナー (IASB 前理事)
	澤口 雅昭	あらた監査法人 代表社員 アシユアランス・リーダー
	大内田 敬	新日本有限責任監査法人 第Ⅲ監査事業部 シニアパートナー
	津田 良洋	有限責任監査法人トーマツ パートナー 教育研修部長
	海野 正	日本公認会計士協会 専務理事
	阿部 泰久	日本経済団体連合会 経済基盤本部長
	八木 健	日本証券アナリスト協会 常務理事
	関口 智和	ASBJ 常勤委員

## オブザーバー

金融庁	油布 志行	金融庁 総務企画局 企業開示課長
FASF	都 正二	FASF 代表理事常務
ASBJ	西川 郁生	ASBJ 委員長
ASBJ	小野 行雄	ASBJ 委員長代行

当財団では、このような認識に基づき、日本経済団体連合会、日本証券アナリスト協会、日本公認会計士協会、大手監査法人や金融庁の協力を得て、2011年8月に「会計人材開発タスクフォース」を立ち上げてプログラムの開発に着手し、同年11月に第1期プログラムをとりまとめた。そして、第1期は、2012年1月に開講して2013年12月に終了したところである<sup>3</sup>。

第2期プログラムは、第1期プログラムを策定するにあたってのコンセプトを基本的には踏襲しつつ、第1期の実施結果を分析して一部見直して取りまとめたものである<sup>4</sup>。

### 3. 第2期会計人材開発支援プログラムの概要

第2期プログラムの策定にあたっては、第1期プログラムの多くの部分を踏襲している。具体的には、①中長期的な視野に立って国際的な会計人材の育成を図るという趣旨を踏まえ、若い世代を中心とすること、②本プログラムの趣旨が、国際的な発言力の強化に向けた、さまざまな国際的な組織や会議体のメンバーに優秀な人材を継続的に送る取組みであることから、会計に関する知識や

3 第1期プログラムは、若い世代を対象としてIASBのプロジェクト・マネージャーレベルの人材養成を目標とするプロジェクトA(参加者25名)と、IASB理事候補やIFRS解釈指針委員会委員候補、IFRS諮問会議委員候補、ASBJ常勤委員(国際担当)候補等の輩出を目標とするプロジェクトB(参加者11名)からなり、それぞれに沿った具体的な個別プログラムを提供した。

4 第1期プログラム参加者には、期間中、アンケート調査2回と全員を対象とした個別面談を1回実施した。

英語力について一定水準以上の者を対象とすること、③国際的な組織や会議体にはさまざまなセクターから参加することから、本プログラムの対象者は財務諸表作成者、財務諸表利用者、監査人とすること、④提供するプログラムの具体的な内容は、IFRS 開発の基礎にある考え方（概念フレームワーク）の深い理解を図り、論理構成力を磨くとともに、英語力の強化支援に主眼に置いたものとするなどである。

その一方、第1期の実施結果を踏まえて、いくつかの点を見直すこととした。例えば、短期的な目的設定（当プログラムに参加して得られる成果）をより現実的かつ明確なものとした。短期的な成果イメージとしては、IASBにおける各種のアウトリーチ・ラウンドテーブル・ワーキンググループへ参加する人材、さらにはIASB及び企業会計基準委員会（ASBJ）のスタッフ、ASBJの専門委員会の専門委員として、国際的な会計基準開発に貢献できる人材を養成することを目標とすることとした。また、募集にあたっての「一定の会計に関する知識や英語力」についても、より具体的な形で募集要項に明記することとした。さらには、提供するプログラムの個々の内容について一部見直すとともに、期間を2年から約1年半とした。

提供する個々のプログラムは、第1期の若手を対象としたプロジェクトAと同じプログラム構成とし、①ASBJ基調講演、②Accounting（IASBの概念フレームワークの理解を中心に）、③IASB Update、④Discussion（英語でのディベートの進め方の特別講義や特定のテーマでのディベート）、⑤Writingをメインのプログラムとし、⑥国際舞台で活躍する者との交流、⑦IFRS財団アジア・オセアニアオフィスを活用したプログラムも予定している（図表2）。

これら7つの個別プログラムで、約1年半で最大107時間程度、年間で最大70時間程度（IFRS財団アジア・オセアニアオフィスを活用したプログラムは含まず）を予定している。なお、AccountingやDiscussionなどでは相応の事前準備の時間の確保が必要になると考えられる。また、英語力の向上に関しては、派遣元での業務や研修プログラムなどを活用することを前提としたものとしている。

そのほか、第1期プログラム終了者やIASBに出向して帰任された方のうち希望者には、IASB updateの受講の機会を提供するとともに、懇談の機会を設けることも計画している。

#### 4. おわりに

本プログラムは、会計知識と英語力を高め、ディスカッション能力や論理構成力の向上に主眼をおくものであり、派遣元での業務の傍ら、年間で70時間程度の時間を要するものである。業務繁忙期（1月、4月、7月、10月）は除き、換算すると、1週間に2回程度は当財団に来ていただくものである。したがって、派遣元の上司や周りの方の理解と協力が不可欠である。

昨年末に終了した第1期においては、関係者の理解もあり、出席率は総じて良好であった。また、第1期プログラム参加者からはIASBへの出向（1名）、ASBJへの出向（1名）、ASBJの専門委員会の専門委員への就任（6名）のほか、参加者の多くがIASB主催の円卓会議やアウトリーチに参加しており、会計基準開発に関与する人材の発掘の場となったと考えられる。IFRS基準諮問会議メンバー（財務諸表利用者）にも、第1期プログラムのプロジェクトB参加者が選ばれている。さらには、監査人、財務諸表作成者、財務諸表利用者というさまざまなセクターの者が参加したことにより、人的ネットワークづくりに役立ったという声も多く聞かれる。

第2期プログラムも、関係者の協力のもと、我が国の会計人材、特に、国際的な会計人材の発掘・育成の一助になることを期待するところである。

(図表2) 第2期会計人材開発支援プログラムの構成

目的	約1年半	プログラム終了後
知識	ASBJ 基調プログラム	
知識 英語	IASB update プログラム (IASB の基準開発動向等)	IASB の各種アウトリーチ・ラウンドテーブル・ワーキンググループへの参加
知識	Accounting プログラム	
英語	Writing トレーニング (希望者のみ)	
	語学研修 (所属元)	ASBJ の各種専門委員会の 専門委員
英語	Discussion トレーニング <希望者のみ> (語学研修の補完)	
人的交流	国際舞台で活躍する者との交流プログラム	※プログラム終了後、希望者には、一部のプログラム (IASB update プログラム) を継続受講する機会を提供する予定
英語	IFRS 財団アジア・オセアニアオフィスを活用したプログラム (可能な場合)	